

【実践報告1】

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの 在り方に関する研究

— 県立高等学校「総合的な探究の時間」の計画と実践 —

愛知県立豊明高等学校

1 はじめに

豊明高等学校は、豊明市唯一の公立高校として47年前に地域からの大きな期待を受けて開校した。生徒一人一人に合わせたきめ細かい学習指導など「面倒見のよさ」が本校の魅力であり、地元豊明市をはじめ近隣市町の多くの中学校から生徒が入学している。地域との結びつきも強く、ボランティアや部活動、地域活動で地域の方や小・中学校の児童生徒とともに活動する機会が多い。特に豊明市内にある藤田医科大学とは教育連携協定を結び、ボランティア活動やジョブシャドウイングなどを通じて交流があり、普段の高校生活ではなかなか得られない貴重な体験ができる。部活動も盛んで、中でもイラストレーション部は、全国大会の「まんが甲子園」で全国最多出場を果たし、全国優勝など輝かしい成績を残している。その実績から地域活動への参加を要請されており、地域の人たちに親しまれている。他の部活動でも部活動単位で地域活動に参加しており、卒業後、市役所や消防署をはじめ、地元就職する生徒も多い。

近年、生徒間の学力面での差が大きくなってきており、進路希望先も多様化してきている。かつてはリーダーシップをとれる生徒たちがグループを引っ張り、話し合いがスムーズに進んでいたが、最近ではコミュニケーションの苦手な生徒が増え、グループでの活動に加われなかったりトラブルに発展したりすることもある。それでもグループでの活動や発表の後には大きな達成感を得ており、活動内容を工夫し、教員側がうまく働きかければ、さらに意欲的に向上心をもってさまざまなことに取り組めるのではないかと考えている。

本研究は3年目となり、この間「総合的な探究の時間」の見直しを少しずつ進めてきた。3年目の研究のねらいは、育てたい生徒像の明確化と共有及びこれまで長年にわたって「型」通りに進めてきた「総合的な探究の時間」の実施内容のブラッシュアップである。1年目はスクールポリシーの策定を機に、本校が目指す生徒像を改めて全職員で共有してきた。その上で3年間かけて「自己肯定感・自己有用感を育み、地域に貢献できる人を育成する」という目標の実現に向けて「総合的な探究の時間」の在り方を構築し直すことができたと考えている。

2 実践内容

(1) 育てたい生徒像の共有

本校では長年にわたり実践してきた「総合的な学習の時間」の3年間の流れがあり、「総合的な探究の時間」となってからも改めて目標を意識することなく続けられてきた。そのため、どういう力を付けさせたいのかなどを問うことなく、マニュアルに沿って「型」通りに実施しているという現状があった。

スクールポリシーを策定するに当たり、本校の目指す方向性について考える機会があった。育てたい生徒像や身に付けさせたい力について全職員で議論し、その結果を総合的な探究の時間の目標として見直していくことにした。

ア スクールポリシー策定に合わせた目標の明確化

まず、全職員でS W O T分析を行い、更に学校評議員やP T A、地元中学校の先生方からの意見も集約し、本校の置かれた環境や本校に寄せられる期待、生徒の現状を把握した。そこから見えてきたことは、「地域での活躍」「自己肯定感」「成功体験」「自信」といった言葉であった。地域に根ざした高校として今後も地域の中で活躍してほしいこと、自分に自信がもてない生徒たちに、さまざまな活動の中で成功体験を積み、自己肯定感を高めてほしいことなど、本校が育てたい生徒像が明らかになった。

イ 全体計画と各学年の目標設定

「総合的な探究の時間」の全体計画（別紙1）作成と並行して、スクールポリシーに基づいた学年ごとの到達目標を設定した。例えば1年生の1学期では、例年実施してきた地域探究活動を中心に据え、地域の課題について知ること、更にそこから自分の興味・関心に気付くことを目標とした。また、1人1台端末を使った資料作成や人前で発表するときの基本的なスキルを身に付けることも目標に加えた。このように、単元ごとに目標や評価の観点を示してから始めることで、自分たちの活動の意義が理解でき、どのような力を身に付けたいのかを意識しながら取り組ませることができた。

(2) 活動内容の見直し

前述したように、本校の「総合的な探究の時間」のプログラムは学年ごとにほぼ固定化されており、恒例行事として定着しているものもある。そのため初めて担当する教員でも迷うことなく進められるというメリットがある。しかし、若干のアレンジはあるものの10年以上前に始まったスタイルがそのまま踏襲されているため、生徒たちの現状に合っていない部分が出てきている。また、単なる調べ学習にとどまったり、発表すること自体が目標になってしまったりといった「探究」としては不十分な活動もあったため、今回の研究を契機に内容の精選や実施計画の見直しを図った。

ア 探究課題の設定

探究活動で最も難しいのは「テーマ」探しである。生徒にテーマを自由に設定させると、興味・関心は高いが自分の中だけで完結してしまう趣味に関するテーマや、インターネット上に既にさまざまな意見が書き込まれている「できあい」のテーマを選ぶことが多い。逆に、教員側から現代社会の諸問題などをテーマとして与えても、結局切り口が見つからず、安易な結論でまとめて満足してしまうことになる。

そこで、最初からハードルを上げるのではなく、まず「好き」なことをひたすら追究してよいと伝えた。そこからどうやって広がりのある「探究」に深めていくか、教員側からの適切なアドバイスが必要である。例えば、修学旅行先の神戸南京町での散策を楽しみにしていた生徒が選んだテーマは「南京町スイーツ選手権」であった。そのままではただ飲食店を訪れて写真を撮り、実食の感想をレポートするだけで終わってしまうと考え、再考を促すことにした。

教員「南京町っていつごろできたのかな？」

生徒「(タブレット端末で「南京町の歴史」を調べ始める)」

教員「どうして南京町みたいな中華街ができたんだろうね」

生徒「港があるから、外国人がたくさんいた」「貿易関係の人が住み着いた」

などそれぞれの思い付きを話し始める。

教員「そういえば他にも中華街があったね。どこだっけ？」

生徒「横浜にある」「長崎も」「チャイナタウンもある」

1人1台端末で見つけた情報をお互いに確認し合う。

教員「何か共通点はあるのかなあ。それか、それぞれの特徴ってあるのかな。あんまり知られてないよね」

生徒「(ふうん、というような表情)」

教員「実食レポートで観客をつかんで、そこからもっと深いところまで調べた結果を発表すると面白いかも」

「総合的な探究の時間」の担当者は担任と副担任であるため、生徒たちの状況がよく分かっており、生徒自身の思いも尊重しつつ適切なアドバイスをすることができた。1年生の前での発表を恥ずかしくないものにしたい、という気持ちは強く、生徒の方からヒントを求めに来ることも多い。できる限り自分たちでテーマにたどり着けるようアドバイスするには、教員側にも問題意識と一緒に探究しようとする気持ちが必要である(資料1)。

【資料1 第2学年修学旅行神戸班別研修の探究テーマ例】

〈生徒が考えたテーマ〉

神戸南京町のスイーツ食べ比べ
名古屋と神戸のアニメショップ比較
阪神淡路大震災について

〈アドバイス後のテーマ〉

日本各地にみられる中華街の歴史的役割
アニメ作品にみられるジェンダー意識
震災前後の市街地の街並みと避難対策

イ 調べ学習から「探究」へ

例年実施している総合的な探究の時間の活動内容には大変意義のあるものが多い。だが、せっかく外部から講師を招いてもただ話を聞くだけで終わったり、「進路調べ」としてインターネットの情報を切り貼りしただけで済ませたりすることも多かった。それは、他教科での学習内容や他の活動とのつながりを意識させずに、単発の活動としてとらえてしまったからであろう。3年間の「総合的な探究の時間」の流れの中での位置付け、また他教科で学んだ内容との関連を意識させながら、「調べ学習」を「探究活動」に深めていきたいと考えている。

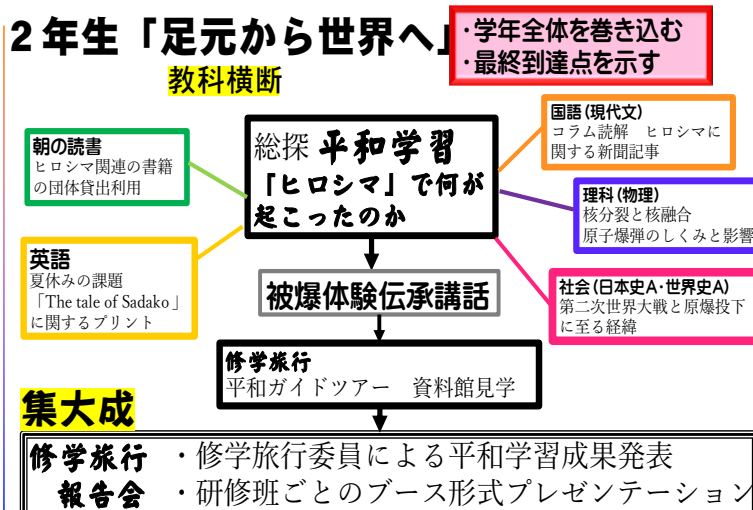
ウ 実際の活動例—第2学年「修学旅行に関する探究活動」から—

2年生は修学旅行を題材とした平和学習、テーマ別分散研修を中心に据えて活動を行っている(資料2)。特に、1年生に対する「修学旅行報告会」は長年続いてきた2年生の活動の集大成である。先輩たちの発表を見ているので、自分たちも何をするのかを理解しており、修学旅行に行く前から取材内容について時間をかけて検討してきた。

令和4年度は行き先が4月に沖縄から広島・神戸へと変更になり、時期も1月から11月に前倒しとなった。その

ため準備に当てられる時間が少なく、スケジュールがかなり厳しくなってしまったという反省がある(資料5)。それでも、毎時間真剣に話し合い、少しでもよい発表にしようとして授業後や自宅に帰ってからも準備に取り組む生徒を見て、活動を楽しんでいることを感じる事ができた。

【資料2 平和学習と他教科・科目との関連図】



発表後の反省と自己評価票（別紙5）にも、「1年生が興味をもってくれたことがとても嬉しい」「修学旅行中も写真や資料集めをちゃんとやったのでいいスライドができた」「修学旅行委員をやるだけなのに、『発表の選抜メンバーですか』と言われて自信がついた」といった前向きな意見が多く見られた。

【資料3 神戸分散研修発表会の様子】



【資料4 修学旅行委員による発表の様子】



【資料5 第2学年探究活動の計画概要】

〈活動内容〉

- 6月 神戸分散研修 コース立案
探究テーマ設定（3時間）
- 9月 平和学習ガイダンス
平和探究ワークシート
探究テーマ設定（4時間）
- 10月 被爆体験伝承講話（1時間）
「平和学習まとめ」
Teamsでの共有（2時間）
- 11月 修学旅行（2泊3日）
現地でのフィールドワーク
（3時間）
報告会準備 パワーポイント作成
（4時間）
発表リハーサル（1時間）
- 12月 1年生に向けての修学旅行報告会
（1時間）
前半：「平和学習まとめ」の全体発表
後半：神戸分散研修報告会

3 成果と課題

これまで前年踏襲となるが多かった「総合的な探究の時間」の取組が、今回の研究をきっかけに「本校の目指すべきもの」「生徒に身に付けさせたい力」「探究とは何か」などについて話し合いを行うことで、目標の再確認と内容のブラッシュアップを図ることができた。現在のスタイルが確立した頃とは社会の状況も生徒自身の様子も変化してきており、今、目の前の生徒たちに必要な活動は何かということ柔軟に考えることが大切であると気付かされた。本校生徒だけではなく、SNSに親しみIT機器の操作に長けた世代であるとともに、積極的なコミュニケーションによる相互理解よりも「空気を読む」ことによってその場の雰囲気に合わせてることを大事にする傾向が強くなってきている。議論や討論を重ね、いろいろな考え方の仲間と一緒に一つのものを作り上げることがグループワークの目的であるが、トラブルの原因になることもあり、「総合的な探究の時間」の重要な目標である「他者との協働」を実現させるのが難しい場面もある。しかし、さまざまな苦労を経て探究の成果物を完成させたときの達成感は大い。生徒の自己評価からは、「途中で友達と意見がかみ合わなくて投げ出しそうになったけれど、何とか最後まで完成させることができてよかった」「パワーポイントが分かりやすいと評価されたので、どうすれば人に伝わるものが作れるかもっと勉強したい」

「次に発表の機会があったら、今度はちゃんと前を見て話す速さに気を付ける」など、今回の反省と今後の活動への意欲的な言葉が多く見られた。

一方で、実際の計画・運営は一部の教員が行うことが多く、負担が偏ってしまうことは継続的な課題である。特に校外の方と一緒に活動する企画では、生徒に与える効果が大きい分、綿密な打ち合わせが必要である。生徒を校外で活動させる場合においても、安全面や感染症対策など配慮を必要とすることが多い。もっと生徒を校外に出し、地域がもつ人的・物的資源を活用してさまざまな人と交流させたいが、限られた教員だけで進めるには負担が大きい。教材を全て手作りするのではなく、外部ツールも取り入れて担当者の負担を軽減しながら、できるだけ多くの教員が関わって「総合的な探究の時間」を作り上げていくことが今後の目標である。そして、生徒も教員も「探究活動は楽しい」という充実感が得られるような時間にしていきたいと考えている。

【別紙1 全体計画】

豊明高等学校 「総合的な探究の時間」 全体計画

第1の目標	各学校における教育目標
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>校訓「学び、体す」</p> <p>(1) 志を高く掲げ、自己実現に向けて粘り強く学び続ける力を育成する。</p> <p>(2) 他者との協働を通して思いやりの心を育み、公共心を身に付けた人を育てる。</p> <p>(3) 様々な教育活動を通して自己肯定感・自己有用感を育み、地域に貢献できる人を育成する。</p> <p>知識・技能</p> <p>★学習習慣の定着 基礎基本となる知識・技術の習得</p> <p>★社会的モラルやマナーを身に付け公共心を持つ。</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>★社会性やコミュニケーション能力を身に付けさせる。</p> <p>★言語を活用した論理的思考力や、分かりやすく表現する力を育てる。</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p> <p>★学ぶ楽しさを体験させ、自ら学ぼうとする意欲と向上心を抱かせる。</p> <p>★奉仕の精神や社会貢献の意識を育てる。</p>



各学校において定める 目標
<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を取り巻く地域社会に目を向け、基本的な社会の仕組みを知る。さらに地域社会が抱える課題に関心を持ち、問題解決に取り組むための方法を学ぶ。 <p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を収集、分析する能力や、自らの考えを言葉でまとめて表現する能力を向上させ、他者とコミュニケーションを図りながら探究を深めようとする態度を育てる。 <p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な社会活動に当事者意識をもって参画し、社会の一員としての自己の在り方を考えようとする態度を育成する。



各学校において定める 内容	
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力
<p><自己理解・他者理解></p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションゲーム「匠の里」を使って新しい人間関係づくりのきっかけとする。(1年) 「こんな生き方がしたい」というテーマでスピーチを行い、自分の生き方を振り返るとともに、将来の目標を明確化する。(3年) 進路適性検査を通して、自己の適性や興味のありかに関心し、今後の可能性を含めた自己理解を深める。 <p><地域研究></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の通学路を観察し、興味関心を持った事柄について調査し、レポートにまとめる。(1年) 学校所在地である豊明市を題材に、市役所から講師を招いて地域が抱える諸問題についての話を聞き、ワークショップを行う。(1年) <p><修学旅行先研究></p> <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行先「広島・神戸」についてのグループ研究を通して、様々な今日的課題への関心を高める。(2年) 事前学習したテーマについて現地でフィールドワークを行うため、班別に研修計画を立て、現地で取材や資料収集を行う。(2年) <p><キャリアプランニング></p> <ul style="list-style-type: none"> 進路講演会、大学等出前講座、系統別グループワーク、職業人インタビューなどを通して、進路目標を具体化する。(全学年) 進路に関する情報を収集し、上級学校見学や職場体験、ジョブシャドウイング等に参加した結果をレポートにまとめて発表する。(全) 	<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の知りたい情報を得るための方法を身に付ける。 収集した情報や話し合いの結果を、レポートやポスターに分かりやすくまとめる技術を習得する。 進路先や職業に関わる基本的な知識や、課題解決に必要な知識を身に付ける。
	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> 小論文やスピーチ、ディベートなどの場で、言葉を使って自分の考えを的確に表現する力を身に付ける。 他者と協働して問題解決に取り組む中で、一つの課題を様々な角度から捉え、思考を深める。
	<p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者と積極的にコミュニケーションをとり、自他の違いやお互いのよさを認め合う。 探究活動を通して学んだことを生かし、当事者意識をもって社会に参画しようとする。



教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力	
情報活用能力	言語能力
<ul style="list-style-type: none"> 学校のタブレット端末を活用し、必要な情報を効率よく収集する方法を身に付ける。 収集した情報を整理・分析し、相互に関連付けて特徴的な傾向を読み取る力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ディベート、プレゼンテーション、スピーチなどを通して、聞き手を説得できる話し方や表現方法を身に付ける。 自分の考えを文章にすることを習慣化し、正しい言葉の使い方や論理的な文章の構成の仕方を身に付ける。

「総合的な探究の時間」の年間指導計画

第1学年

月	テーマ「足元を観る」
4	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校における「総合的な探究の時間」の目的及びねらいを聞き、3年間を通じた学習の流れを理解する。 1年生のテーマ「足元を観る」について理解する。一本校を取り巻く地域を題材として、自らの興味関心を発見し、課題探究の過程で「学び方」を身に付ける。 【1】
5	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションゲーム「匠の里」を実施し、新しいクラスで人間関係を作るきっかけとする。 一人一人が発言することによってグループ内での役割を果たし、コミュニケーションを図りながら他者と共に課題を解決する方法を学ぶ。 【1】
6	<p><1学期></p> <p>進路適性検査を通して自己理解を深め、進路講演会において社会で活躍する人の話を聴くことで、自分を取り巻く社会について知るとともに、自らの進路目標を立てるきっかけとする。 【3】</p>
7	<p>本校がある豊明市について、歴史・文化・産業・自然・環境・医療・教育・生活・街作りなどさまざまな角度から観察し、自らの興味・関心をもとに課題を発見する。</p>
8	<p>①自分の居住地や通学中の観察から自分の関心を引いたもの、興味を感じたことについて調査する。</p> <p>②調査結果をレポートにまとめ、2分間のスピーチ原稿を作る。</p> <p>③クラス内で2分間スピーチを実施し、相互評価を行う。 【9】</p>
9	<p><2学期></p> <p>1学期で提起された課題について、関心のある分野ごとに分かれてグループワークを実施し、課題探究の方法を学ぶ。</p> <p>豊明市役所、近隣の大学などを通して外部講師を招聘し、課題に関する講義、ワークショップなどを実施する。</p>
10	<p>グループでの探究結果をパワーポイントにまとめ、発表を行う。</p> <p>【手順】</p>
11	<p>①生徒の関心があるテーマをいくつかの分野に分け、希望を集約してグループを編成する。</p> <p>②メンバー同士でアイスブレイク（自己紹介ワークショップ）を行った後、研究テーマを決める。</p>
12	<p>③豊明市役所、社会福祉協議会、藤田医科大学などを通して、地域で活躍する社会人の講演を聴き、豊明の特徴や魅力、現在抱えている課題について考えるきっかけとする。</p> <p>④テーマについての調べ学習、考察を行い、パワーポイントを作成する。</p>
1	<p>⑤異なるテーマのグループに対して発表会を行い、パワーポイントの内容や発表の仕方についての相互評価を行う。</p>
1	<p>⑥優秀作品の全体発表、反省会、自己評価を行い、自分の活動を振り返る。 【10】</p>
2	<p><3学期></p> <p>1、2学期の活動を通して気付いた諸課題と、大学等での学びや職業との関連を考えさせる。各自で調べた内容を個人レポートにまとめることによって、自らの進路に対する意識を高めさせる。</p> <p>テーマの設定方法や情報収集の方法など、レポートを作成する上で必要な技術を身につける。</p>
3	<p>①1、2学期の活動をふまえ、自分が興味関心を持った事柄について学ぶことができる学部・学科・専攻などについて調べる。その際、ICTの積極的な活用を促す。</p> <p>②情報収集の方法、レポート作成のための手順などを学ぶ。</p> <p>③外部講師の講演を聴き、最新の社会情勢や上級学校の情報を得てレポート作成に活用する。</p> <p>④テーマについて調査、探究し、個人レポートにまとめる。</p>
3	<p>⑤作成した個人レポートを発表し、「相互評価表」を使って評価し合う。</p> <p>⑥他者評価も考慮しながら、自らのレポートや発表の内容について自己評価する。 【10】</p>
3	<p>・1年間のまとめ、振り返り、ポートフォリオの作成、今後の課題の検討</p> <p>・次年度に向けての課題探究 【1】</p>
	<p>計 35時間</p>

「総合的な探究の時間」の年間指導計画

第2学年

月	テーマ「足元から世界へ」
4	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年次における「総合的な探究の時間」の目的及びねらいを理解する。 ・卒業後の進路先やさまざまな職業について、自ら主体的に情報を収集し、進路意識を高める。 ・修学旅行先である「広島・神戸」を題材とし、「地域」から「世界」へ目を向けて、我々を取り巻く諸問題の解決や探究活動に取り組むことを目指した活動であることを理解する。 <p style="text-align: right;">【1】</p>
5	<p><1学期></p> <p>身近な人に「職業人インタビュー」を行い、働く意義や喜び、また社会人として身に付けるべき力や心構えを学ぶことによって、職業観、勤労観を育成する。また、インタビューの実施により、アポイントメント</p>
6	<p>の取り方、質問の仕方、メモの取り方、正しい言葉遣いなど基本的な対人ルールを学ぶ。</p> <p>進路講演会、進路適性検査、進路研究を通して、現在自分の置かれている状況や今後の可能性を含めた自己理解を深め、具体的な進路目標を設定する。</p>
7	<p>進路研究の成果をレポートにまとめてプレゼンテーションし、相互評価する。</p> <p>長期休業を利用して、上級学校の見学や体験入学、また職業体験（看護・保育など）やジョブシャドウイ</p>
8	<p>ングに取り組み、レポートにまとめる。</p> <p style="text-align: right;">【7】</p>
9	<p><2学期></p> <p>修学旅行先を題材にして、参加型学習の形式により国際関係、異文化理解、人権、平和教育、環境問題などに関しての関心を高める。</p>
10	<p>テーマ授業 修学旅行先のテーマ別グループ学習</p>
11	<p>①歴史・文化・自然・産業などテーマ別にグループを編成する。</p>
12	<p>②テーマに関連する具体的なサブテーマを決定し、グループで調査研究を行う。</p>
11	<p>③グループ内で調査内容について話し合い、他のグループに対して伝えたいことを絞り込む。</p>
11	<p>④調査結果をレポートにまとめ、「班別研修行動計画書」を作成する。</p>
12	<p>⑤テーマ別グループにより、調査結果のクラス発表、全体発表を行い、各テーマの発表を聴くことで修学旅行先を多角的に学習する。</p>
12	<p>⑥自己評価、相互評価を行う。</p> <p style="text-align: right;">【10】</p>
1	<p>DVDの鑑賞や講師を招いての平和学習などを通して、広島・神戸についての知識を深める。</p> <p style="text-align: right;">【2】</p>
1	<p>広島・神戸フィールドワーク計画</p>
1	<p>①フィールドワークグループを編成して研究テーマを決定し、フィールドワークの行程を検討したあと、現地について調査する。</p>
1	<p>②グループテーマに沿って事前学習を行い「修学旅行のしおり」にまとめる。</p> <p style="text-align: right;">【5】</p>
2	<p><3学期></p>
2	<p>修学旅行2日目に、グループ別で現地フィールドワークを行い、その成果をまとめ発表する。</p>
2	<p>①現地フィールドワークを実施し、発表に使用する資料を収集する。</p>
2	<p>②グループテーマに基づき調査内容をレポートにまとめ、パワーポイントを作成する。</p>
2	<p>③1年生への報告会に向けて発表内容を準備する。</p>
2	<p>④パワーポイントにより修学旅行報告会を実施する。</p>
2	<p>⑤グループレポート、報告会についてグループディスカッションで評価する。</p> <p style="text-align: right;">【8】</p>
3	<p>進路分野別出前講義</p>
3	<p>進路希望に応じた14～16講座の出前講義を実施し、より専門的な話を聞くことで進路意識を高める。</p> <p style="text-align: right;">【1】</p>
3	<p>・1年間のまとめ、振り返り ポートフォリオの作成 今後の課題の検討</p>
3	<p>・次年度に向けての課題探究</p> <p style="text-align: right;">【1】</p>
	<p style="text-align: right;">計 35時間</p>

「総合的な探究の時間」の年間指導計画

第3学年

月	テーマ「未来を語る」
4	<p><オリエンテーション> 3年次における「総合的な探究の時間」の目的を理解する。 【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中での自己の在り方を考え、具体的な問題意識と目標を設定した上での主体的な進路選択を行い、自己実現を目指すことを理解する。 ・人権や環境などに自己を取り巻く社会の状況に対する関心を深め、社会の諸問題に対して当事者意識をもって向き合う姿勢を養う。 ・ディベートやレポート作成、スピーチ、小論文作成を通して、自らの考えを筋道立てて話したり論理的な文章に表したりする力を身に付ける。
5	<p><1学期> 社会との関わりを意識化し、自己の進路目標の明確化を図るとともに、レポートやスピーチ、ディベートによる発表技術を学ぶ。 自己分析 自分史作り</p>
6	<p>①これまでの自分の生き方を振り返り、今後の社会の動きと自己の行動を想定し、未来予想図を作成する。</p> <p>②自分自身の仕事やキャリアの手本となる優れたモデルを探し、レポート「こんな生き方がしたい」にまとめる。</p> <p>③②のレポートを、2分間スピーチによってクラスで発表する。 【3】</p> <p>進路系統別にグループを編成し、各グループで必要な知識や情報を収集し、ディスカッションを中心とした活動を行う。</p>
7	<p>①各分野別に大学・専門学校・企業から講師を招き、自己の関心と未来への課題に関連する講義を聴く。</p> <p>例：「法と社会」「国際化への対応」「日本経済の行方」「歴史から学ぶ」「少子高齢化への対応」など</p> <p>②①の各課題に対する情報、知識を収集し、報告し合う。</p> <p>③②で得た情報、知識を基に、課題について討議する。 【6】</p> <p>希望する進路先について調査し、オープンキャンパス参加などを計画立案する。</p> <p>自己PR文の作成のためにポートフォリオをまとめる。 【1】</p>
9	<p><2学期> 進路系統別グループワークを発展させ、言語による表現活動を通じて問題解決能力を養う。 【7】</p> <p>ディベートの実践</p>
10	<p>①教室ディベートの方法を学ぶ。</p> <p>②第1、2学年で実施してきたグループワークでの課題を踏まえ、ディベートテーマを決定する。</p> <p>③ディベートを通じて課題の本質を追究し、問題解決へのアプローチの方法を学ぶ。 【7】</p>
11	<p>テーマ型小論文と自己PR文の作成</p> <p>①小論文作成の技術を学ぶ。</p>
12	<p>②自ら課題を見付け、テーマ型小論文を作成する。また自己を客観的に分析し、他者に適切に伝わるような自己PR文を作成する。</p> <p>③評価の観点に従ってグループ内で評価し合い、評価する力を養う。 【5】</p>
1	<p><3学期> 本校での3年間の学びを振り返り、学校説明会に訪れる中学生に対して「豊明高校紹介ポスター」を作成する。</p>
2	<p>3年間のポートフォリオをまとめ、社会の中で自分が果たすべき役割について考えさせる。</p> <p>3年間の「総合的な探究の時間」の総括と評価を行う。 【5】</p>
	計 35 時間

第2学年 「総合的な探究の時間」 自己評価

2年()組()番()

2学期の「総合的な探究の時間」では、修学旅行を題材として「平和に関する探究」と「神戸班別研修」「1年生への報告会」を実施しました。それぞれに対する自分の取組を振り返り、自己評価をしよう。

- 大変よくできた…………… A
- まあまあできた…………… B
- あまりよくなかった……… C
- 改善が必要…………… D

	評価項目	評価	よかった点・改善点・反省・感想
神戸班別研修	研修先のプランを、班員と協力して作成することができた。		
	研修プランについて積極的に意見を出すことができた。		
	神戸での研修において、プランに沿って順調に進めることができた。		
	研修を終えて、探究の対象に関する興味・関心を高めることができた。		
平和学習	事前の平和学習(講演会、ヒロシマに関する探究)に真剣に取り組んだ。		
	ヒロシマに関する探究において、ふさわしいテーマを見つけることができた		
	「碑めぐりガイドツアー」「平和資料館見学」に真剣に取り組んだ。		
	さまざまな平和学習によって、平和に関する意識を高めることができた。		
修学旅行報告会	報告会準備(スライド作成・発表原稿)に真剣に取り組んだ。		
	探究内容を分かりやすく伝えるスライドを作成することができた。		
	発表の態度、話し方、声の大きさなどを工夫して伝えることができた。		
	発表内容を聞いた1年生に、興味をもってもらうことができた。		
	他者に分かりやすく伝える技術を学ぶことができた。		